2024年度 学校運動部活動指導士養成講習会

第8回 2024年6月23日(日)～25日(火)

東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター

第9回 2024年9月6日(金)～8日(日)

兵庫県 武庫川女子大学

第10回 2024年11月2日(土)～11月4日(月・祝)

北海道 北翔大学

【時間】

9時開講式
18時閉講式（予定）

【受講料】

31,000円　（受講料、資料代、CBTシステム利用料、資格認定登録料含む）

【申込】

講習会申込サイト
マナブルから
お申し込みください

学習内容

指導法・指導理論
- スポーツ指導法（初心者・初級者指導のコツ）
- 運動学習理論（段階的指導法）
- 中学生年代の体力トレーニング法
- 中学生年代における性差とスポーツ指導法
- コーディネーショントレーニングの理論と実践

心理学
- コーチングの心理学（モチベーション）
- カウンセリングマインド／アンガーコントロール

組織開発
- チームビルディング：個性を育むチームづくりとリーダーシップ

安全管理、救急処置
- 安全確保と成長期におけるケガ等の救急処置
- 学校スポーツ施設・設備・用具の安全管理

スポーツ栄養学
- 中学生年代に必要なスポーツ栄養学

指導倫理・スポーツ倫理
- 生活を豊かにする部活動指導の倫理・理念と指導者の役割

スポーツ社会学
- 部活動の継続とドロップアウト（スポーツの社会化）

行政・地域のマネジメント
- 部活動改革と地域スポーツ（地域スポーツNOW）
- 部活動と地域スポーツクラブの組織連携マネジメント
- 部活動の歴史的背景と指導員の職務組織運営
- 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインのポイント　（配信）
- 学校運動部活動の歴史と将来(配信)
  友添秀則　環太平洋大学

講師紹介

友添秀則先生 /
（生活を豊かにする部活動指導の倫理・理念と指導者の役割・学校運動部活動の歴史と将来）

岩﨑由純先生 /
コーチングの心理学
（モチベーション）

【受講した方のコメント】

私の年代の時の部活動と現在の部活動のあり方に正直驚きを感じた。現在のスポーツの指導では総合的に指導者はたくさんのことを理解し行動に移すことがとても重要だということ。そして指導の流れをイメージし学習者の技能レベルに応じ実行可能な目標を設定しそれぞれの段階に適した局面を指導することが大事だということである。

男性　50歳代

昔と現在の違いやどちらの時代の事もとても共感でき、今なら変えられる事・変えなくてはいけない事など課題が見えてきました。

『子供達の為』に一人一人が重要な他者となり子供達に良い影響をあたえるそんな人が地域にたくさん増え、より良い環境を整え『学校運動部活動地域連携』にも取り組むことで、総合型地域スポーツクラブとして少しでも人づくりや子供達の成長のお手伝いがしたい。

30代女性

問い合わせ先

公益財団法人日本スポーツクラブ協会
電話　03-6407-1425
メール　info@jsca21.or.jp

公益財団法人
日本スポーツクラブ協会

スポーツくじ　WINNER SOCCER・BASKETBALL　toto FOR ALL SPORTS OF JAPAN　BIG

※この講習会はスポーツ振興くじ助成事業として実施されています。

「走り出した中学校運動部活動の地域移行」への対応

令和５年４月から懸案の中学校運動部活動の地域移行が始まりました。これまでの学校運動部活動のシステムが根底から変わる「部活動の幕末」の到来とも言えます。

本協会では、平成31年２月から部活動における指導者資格制度と養成講習会について準備を進め、令和３年度末から学校現場が求める即戦力の運動部活動指導者の育成を目指して「学校運動部活動指導士」養成講習会を開始しました。この２年間に7回の講習会を開講しており、今年度の8回から10回の開催はスポーツ振興くじ助成金の補助を受けて実施します。教育新聞の抜粋、理事の抱負を紹介します。

野川春夫理事長

これまでの学校部活動は教育課程外の学校教育活動として位置付けられていましたので、地域スポーツクラブ指導者にとっては思春期年代の中学生・高校生に対する系統的な知識・指導法等の絶対量が不足していると言っても過言ではありません。中学生年代は、身体的にも精神的にも発育発達については個人差が大きく、性差を踏まえた指導や対応が求められます。スポーツや運動に関しては、単一種目追求型もいれば多種目追求型もいます。中学生年代は、自主的・自律的にスポーツ･身体活動に取り組む「アクティブライフスタイル」の形成に重要な時期です。この時期はいろいろなスポーツに親しめるように初級者指導の良否がカギとなります。したがって、本協会が目指す部活動指導者は、初級者指導に長け、複数種目の指導を意欲的にチャレンジする人材を養成します。

桑田健秀理事

「ステークホルダーのマネジメント」担当

戦後の日本スポーツ界を底辺で支えてきた学校部活動が次のステージにステップアップしようとしています。学校だけではなく地域の専門家や有識者たちと協働してスポーツ振興のみならず、地域における新たなスポーツの価値創造、感動の共有化を軸に地域振興・地域コミュニテイの再生に挑戦していくことになります。地域によっては課題が異なり不安や心配も大きいと思いますが、個々の特色を生かし、ジュニア期の子供達が安心・安全かつ継続的に良質な指導を享受できる環境づくりが重要なテーマです。そのためには、指導者の育成と地域スポーツをマネジメントできる人材およびその受け皿組織の育成が喫緊の課題です。全国各地で活動されている多くの皆様と連携して、新たな地域スポーツの構築の夢にむけスタートしましょう。

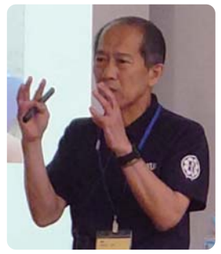
山口泰雄理事

「スポーツの社会化･ドロップアウト」担当

部活動は、少子化や教員の働き方改革という背景から、外部指導者制度や部活動指導員制度の導入、ガイドラインによる休養日（平日・週末に各１日以上）の設定などにより、地域移行が試行されてきました。しかし、外部指導者による部活動運営は指導内容の質の確保や安全･安心なスポーツ活動の担保など諸課題があり、スポーツ庁（２０２２年）は「学校部活動及び新たな地域スポーツクラブ活動のあり方等に関する総合的なガイドライン」を策定・公表しました。具体的には、公立中学校における部活動を段階的に地域移行し、2023 年度から 25 年度を改革推進期間に位置づけています。部活動の地域移行においては、柔軟な発想と科学的知見を備えた質の高い指導者の確保と、地域の受け皿を確保できるシステム構築が重要であり、ステークホルダーによる協議とヴィジョンづくりが課題です。その意味でも、日本スポーツクラブ協会による運動部活動指導者の養成は大きなミッションがあります。

野田哲由理事

「安全確保と成長期におけるケガ等の救急処置」担当



中学生年代は身体的な発育発達の個人差が大きく、成長痛などのスポーツ障害が一番起こりやすい時期です。その理由のひとつは、骨に成長軟骨が残っていて、繰り返しの動作（オーバーユース）や強い負荷に耐えられないからです。また、熱中症にも罹りやすいことから深部体温を下げる正しい応急処置法に通暁しておくことが部活動指導者に求められます。部活動の地域移行にともない、地域の事情によって様々な指導者が中学生を指導することになるでしょうが、本協会の学校運動部活動指導士養成講習会が最重要視する「生徒ファースト」の理念を持った指導を行うことを望みます。

メディア

（第３種郵便物認可）　日本教育新聞

人づくり国づくり 913

小・中学生に複数種目の体験を

野川　春夫　公益財団法人日本スポーツクラブ協会理事長

総合型地域スポーツクラブの育成に国が乗り出してから30年がたとうとしています。この間、全国に3450クラブが創設されました。

学校の部活動は今、曲がり角を迎えています。生徒数が減って、試合に出ようとすると、他校と合同でチームをつくらざるを得ない状況があります。

これからの方向性を考えると、週末に単一種目に打ち込むのではなく、季節ごとに複数の種目を体験するシーズン制を視野に入れていくことが必要です。部活動の歴史を踏まえると、指導者や保護者は通年で同一種目を指導することが当然だと考えますが、小・中学生の年代は、スポーツに限らず複数種目を体験したいという思いも強いようです。

まずは、いろいろなスポーツを経験できるようにする上で、総合型スポーツクラブは大きな役割を果たせる可能性があります。

ある特定種目を追究したければ、今は、プロチームの下部組織をはじめ、既に多くの場が子どもたち向けに開かれています。費用負担の問題はありますが、そもそも学校部活動が無償という慣習を見直す時期に差し掛かっているといえます。

米国などと比べると、日本のスポーツ活動では、練習ドリル形式が占める割合が多いように感じます。基礎練習や体力づくりも大切ですが、試合形式で楽しむ場面はもっとあってよいように思います。

子どもの人数が多かった頃は、レギュラー以外は、ボール拾いや声出しで部活動の時間を過ごすといったこともありました。その時代の名残かもしれません。

もう一つ、考えておきたい視点は、ストリートスポーツの普及です。3人制バスケットボールはゴール一つで6人いれば試合ができます。ストリート系という、良い印象を持たない人もいるかもしれませんが、限られた空間で手軽に楽しめるストリートスポーツは、子どもたちの間でも一つっと普及してもよいでしょう。

また、発達障害を含む障害のある子どもたちのスポーツの場を確保することも重要な課題です。これまでの部活動では、見落とされてきた部分といえます。

今後、中学校に関していえば、放課後、1時間くらい、体を動かしてから帰宅する「学童保育の中学校版」を設定してもよいでしょう。スポーツに限らず音楽演奏でもよいかもしれません。学校にはさまざまな機材、施設があるので、それを生かさない手はありません。

着実に歩みを進めてきた総合型地域スポーツクラブには、新しいコミュニティーを生み出す力があります。中学生年代がスポーツや文化活動を体験する場として、さらに、発展していくことを期待しています。

次回は岩元義継さん（大阪府豊中市教育長）

のがわ・はるお　オレゴン州立大学大学院博士課程修了。鹿屋体育大学教授、順天堂大学教授などを経て平成28年から現職。

いじめ防止法

子どもの未来社　1650円　☎03・3830・0027

教職あいうえお　校長・教頭・

日本教育新聞　2024年（令和6年）4月1日

人づくり国づくり 925

元オリンピック日本代表選手　**桑田　健秀**さん

部活は地域スポーツクラブで

1976年のモントリオールオリンピックに、バスケットボールの日本代表選手として出場した経験を後に、総合型地域スポーツクラブを発足させるきっかけとなりました。

習志だった当時から、日本鋼管の社員でした。日本鋼管の会長が日本バスケットボール協会の会長に就任した関係もあり、同協会で7年間にわたって仕事をしてきました。

この頃、サッカーはリーグが発足し、バスケットボールもプロ化を考えようとしていましたが、バブル経済崩壊の荒手は大きく、企業に余力はありません。そこで、地域スポーツのチームをつくろうと考えました。

長く生涯の基盤を置いている東京・大田区には、アマチュアの女子バスケットボールチームがありました。企業が支えてきたチームで、やはり、このままでは機能が難しくなるとの話が政に届いていました。

このチームと行政の間をつなぐNPOの運営が出発点となりました。まずは、8人の小学生が集まり、バスケットボールを教えるとこから始まりました。

以後、バスケットボール教室の拠点を増やしていき、今では、幼稚園児から成人、高齢者まで、ダンス、ラグビー、ダンス、チアリーディング、ヨガなどさまざまな種目を展開し、スポーツに親しむ場が広がりました。

社会教育団体として活動の場を確保し、指導者としては、トップスポーツの経験者や、現職の教員も指導者として迎えています。

学校の部活動を巡る課題は長く指摘されてきており、今、顕問を務める教員の働き方改革の観点から、現実しが求められています。ただ、地域移行とは言いながらも、具体的な姿はまだ、あまり見えてきません。

極端に言えば、受け皿は総合型地域スポーツクラブしかないでしょう。今後、競技が続く中、各校に残っても種目を絞ることは現実的ではありません。総合型地域スポーツクラブのなかで、ある種目の場所を設け、スポーツに親しむ場が広がりました。

指導者は、教員とは別に、まずは、公費を投入して確保していくことになるでしょう。いずれは、受益者負担、あるいは、地元の企業からスポンサーとして資金提供を受けるといった構造になっていくのではないでしょうか。

3年前の東京五輪で私たちは、新しい種目の魅力を知りました。この経験も、まだ、日本のスポーツ環境を変えていく大きなきっかけとなることでしょう。

今夏のパリ五輪まで、あと3カ月ほどとなりました。日本選手はきっと活躍します。選手として出場すると世界観が変わります。そして、その経験を地域に戻って生かしてほしいと願っています。

次回は浦田幹男さん（東京都港区教育長）

くわた・きよひで　慶應大卒。日本興業銀行、平成15年からNPO法人地域総合スポーツ倶楽部ミットフット理事長。中央教育審議会分科会委員などを務めた。

子どもつねと読ませたい

子ぎつねと音のなる石

くすのき　しげのり　作
酒井　以　絵

主人公は「旅する音楽家」のジン。ある晩、宿で歌を口ずさんでいると、いつの間にか女の子がそばで聞いていた。「音楽が好きなら、一緒に演奏してみよう」と誘うと、どこからともなく石を持ってきてジンに渡してきた。それは、ただくと美しい音が鳴るという不思議な石だった。次から次へと…。

（ねこ書房　1650円　63…）

出典：日本教育新聞
2024年1月1日
2024年4月1日